

安井小学校校舎改築推進委員会（第2回）

■日時 平成28年11月22日(火) 午後4時30分～

■場所 安井市民館 会議室

■議題

1. 前回推進委員会での意見について
2. 学校づくりの方針
3. 施設の概要及び改築校舎の配置
4. 今後の予定について

■議事

1. 前回推進委員会での意見について

<説明内容>

- ・今後の推進委員会での協議事項を教えてくださいとの意見について、事業としては、大きく分けて、「基本計画」、「設計」、「工事」の3段階となり、現在、協議中の基本計画では、特に「学校づくりの方針」、「施設の概要」、「改築校舎の配置」について、意見をいただき、平成29年度の早い時期に基本計画をまとめたい。
- ・JRに対し、線路沿いに防音壁を設置するように提案したのかという意見について、JRと協議したところ、在来線での防音壁の設置の例はなく、費用の負担はできないとのことで、また、設置する場合も夜間工事となったり、周辺道路が通行止めとなったりといったことが考えられ、設置するのは難しい状況であった。
- ・工事車両の運行ルートについては、工事より前の設計段階でも道路状況等の意見を聞かせてほしいと考えている。

2. 学校づくりの方針

<説明内容>

- ・6つの方針（①安全・安心な学校、②多様な学習に対応できる学校、③快適な学校生活環境、④災害を想定した学校、⑤地域に根ざした学校、⑥環境を考えた学校）について、具体例を示して説明。

3. 施設の概要及び改築校舎の配置計画

<説明内容>

- ・改築校舎の配置について、南側にJRがあり、防音壁の設置も難しいことから、敷地北側と西側にL字型校舎を建てることを考えている。
- ・改築校舎の階数は、地区計画により建物の高さが12m以下という規制があり、3階建までとなる。その中で、4階建の校舎を建てる理由としては、よりまとまった運動場面積を確保したいということがあげられるが、敷地の北側と西側でのL字型校舎の場合、日影及び道路斜線の規制にかかり、建物を敷地境界から後退させなくてはならず、結局、運動場面積は大きく変わらない。
少しでも運動場面積を増やしたいなら、日影及び道路斜線の規制にかからない範囲で4階建にすることは可能であるが、特例許可を得なければならず、これには相当な公共的理由が必要となってくる。
- ・L字型校舎での工事の進め方は2通りが考えられる。一つ目は、敷地の南側に仮設校舎を建て、現校舎の西棟を解体・改築した後、北棟を解体・改築する2期案。二つ目

は、2期案と同様、敷地の南側に仮設校舎を建て、現校舎の西棟、北棟を同時に解体し、改築する1期案。

- ・二案の違いとしては、工期は2期案が約3年、1期案が約2年。工事中の運動場面積は、2期案が2,000㎡、1期案が1,500㎡で、当然、2期案の方が広がる。改築後の校舎については、1期案と比較して、2期案の方が3.5ユニット(1ユニット64㎡)の余裕スペースがある。

【安井小学校より意見】

- ・1期案、2期案について、前回の時点では工事期間の長さや工事中の運動場面積等、どちらも一長一短があり、意見がまとまっていなかったが、その後、1期案について、工事中の運動場で50m走ができるようにする等、改善を検討してもらったこともあり、学校としては、なるべく工事期間は短い方がいいということで1期案を進めていけたらと考えている。

＜質疑応答＞ ●＝推進委員 ○＝事務局 ◎＝設計会社

●どちらの案でも仮設校舎が南側に建つのであれば、電車による音の影響が問題。JRと防音壁の設置を協議した結果、在来線での前例はないとのことだが、それは言い訳ではないか。例えば、防音壁が無理ならこの区間だけ徐行させるとか、そういった話し合いはできないのか。

○さくら夙川駅開業時に設置された壁を壊してからでないと、安全面から防音壁はつくれないといったこともあり、JRとしては費用を負担することは難しいとのこと。南側に仮設校舎を建てても、窓を閉めれば何とか運用できるので、なるべく仮設の期間を短くして事業を進めたいと考えている。

●学校敷地の南側に簡単な防音壁を設置することはできないか。仮設校舎であっても最低2年間は南側で勉強するのであれば、何らかの対策を考える必要があると思う。JRが対策をしないのであれば、市で対策を練る義務がある。

◎学校敷地に防音壁をつくると採光上の問題が起こり、電車による音の影響以上に教育環境に対して大きな影響を与えてしまう。先日、沿線にある深津中学校で教室内の音の測定を行ったが、防音サッシの性能を上げることで、教育環境に必要とされる室内環境は整うので、電車による音の影響の問題はクリアできる。ただ、音が全然聞こえないというわけではなく、窓も開けられない風通しの良くない場所に、長年校舎を設置すること(＝南側配置)は好ましくない。また、仮設校舎であっても敷地内に防音壁を設けるくらいなら、サッシを強化する方がいいと考えている。

●それはどの程度、音を軽減できるのか。また、安井小学校でも測定を行ったのか。

◎学校としての環境基準があり、防音サッシで窓を閉めている状態ではクリアできている。安井小学校は校舎の位置が線路から離れているため、育成センターで測定を行った。完全な防音対応をしている建物ではないが、深津中学校と同様の結果が出ており、仮設校舎でも防音対策をすることで大丈夫かと思う。

●改築後の運動場面積が約5,500㎡になっているが、現在の5,600㎡では狭いということが改築理由の一つであったのに、面積が減るのは問題が解決していない。運動場を広げるには建築面積を減らさないといけませんが、校舎の延床面積は減らせないという中で、4階建が難しいなら、地下をつくるのはどうか。推計上の児童数からすると、最低でも運動場は7,000㎡必要になると思うが、運動場を広げることに

する解決策についてお聞きしたい。

◎まず、現在の運動場面積 5,600 m²の測り方については、測量結果も含め、今後報告させていただきます。また、地下については、昔はプールを地下に設置するというのがあったが、最近ではプール環境や衛生面から良くないということで、つくられていない。普通教室等は採光条件的に入れられず、その他諸室についても職員室等の関連が重要となるので、単純に地下をつくれば、建築面積が減るということには必ずしもならない。運動場面積を広げることについては非常に難しい課題と考えている。

●改築後の運動場面積 5,500 m²の中には、倉庫や花壇、遊具等も入っているのか。また、育成センターを校舎内に入れる案はないか。

◎ご指摘のとおり、入っている。運動場面積についてはもう少し精査して報告する。育成センターを校舎内に入れて、運動場を広げるには、地下や許可を得る必要のある4階建を考えなければならない。

●前回お願いしていた校舎から体育館へ行く際の空中通路の件はどうか。

○設置するには、関係機関の許可や必要性、事業費のこともあるので、引き続き検討していく。進捗状況については、また報告する。

●児童の安全を考えて、ぜひお願いしたい。JRの件も、もう一度検討してほしい。

○ご意見として頂戴させていただく。

●ランチルームの使い方については、どう想定しているのか。将来、児童数が減少した際、ランチルームでの対応と、従来通り教室まで運ぶ対応の両方が考えられる。

○最近の改築校では、異学年も一緒にご飯を食べられるようにとか、地域の方にも使ってもらえるようにということで、約2教室分の広さを設けている。ただ、学級数にもよるが、1学年全員が食べられるようなスペースではない。

●6年間のうち3年間も、児童を仮設校舎で過ごさせるのはかわいそうだと思う。1期案でなるべく工期を短くし、仮設校舎で過ごす期間を少しでも減らしてほしい。

1期案、2期案についての決定や、今後のスケジュールはどうなっているのか。

○ご意見を伺いながら、教育委員会と学校で決定することになるが、実際には近隣や地域の方のご理解がないと進められない事業なので、最終的にはご理解をいただけるようにしていきたい。スケジュールについては、2月頃までは計画について考えていく期間とし、この推進委員会もあと1、2回は開催させてもらいたいと考えている。近隣にお住まいの方に対しては、改築事業に着手したことをお知らせするビラを、すでに配布しており、計画の進捗状況等を説明する会を今後、開催させていただく予定である。

●安井小学校はずっと存続するものなので、しっかりしたものを建てていただきたいし、ある程度工期中の運動場も確保しようと思えば、やはり2期案がいいと思う。ただ、3年間工事ということになると、近隣としては工事車両の出入りとか、騒音とかを極力減らして欲しいという思いもあるが、学校自体の今後のことを考えれば、これから先ずっと継続して使える建物を建てるのが大事だと思う。

●スポーツクラブ21のサッカーや野球等、運動場を使うスポーツについては代替地を用意してもらっているが、場所が遠く不便なので、できるだけ早く運動場を使える状態にしてほしい。

- 1期案と2期案では工事の点からみて、どちらがやりやすいのか。
- 1期案の場合、工事が早く終わるので、近隣に迷惑を掛けにくく、施工計画も単純で安全性にも優れているためやりやすい。2期案だと仮設校舎を増築することになるため、児童の引越しも多くなり、工事自体がややこしくなる。

- 1期案で改築後、東校舎の端に増築される部分は、3階までであるのか。
- ◎ 増築するのは1階部分だけになる。2期案の場合は、その分のスペースがとれるので、3.5ユニットの余裕スペースがある。

- 電車の音により南側には建てられないということだが、今は電車も軽量化しているし、JRも防音壁ではないが壁を設置している。そもそも育成センターは南側に建っており、そこで支障がないのかも含めて、南側がだめならその数値を提示してほしい。また、今の耐震補強された校舎と仮設校舎では、耐震性はどちらが優れているのかを知りたい。特に仮設校舎の安全性について聞きたい。
- ◎ 仮設校舎も建築基準法に則っているものなので、耐震補強された建物と、技術的には同等ということになる。
- 南側配置について、JRの防音壁の設置は難しいと考えているので、今後、数十年も残る校舎であれば、鉄道に近づけるのではなく、反対の北側に配置するのが適切だと考える。また、運動場で遊ぶ児童の声や砂埃など、今は北側配置の校舎で一定ふさげている部分もあるが、南側配置となると、近隣の方への影響は大きく変わってしまう。以上のことから、数値的な根拠も可能な範囲で出させていただくが、総合的に見ると北側配置の方が適切であると考えている。
- それなら、南側にある育成センターの配置は見直すべきだと思う。

4. 今後の予定について

- ・ 次回の推進委員会は年明け以降に開催する予定。今回いただいたご意見・ご質問に対しては、また回答させていただく。